

令和3年度

全国学力・学習状況調査の分析結果と今後の取り組みについて

令和3年10月15日

小城市立三日月小学校

5月に行われた全国学力・学習状況調査（6年国語・算数）の本校の結果をお知らせします。生活習慣に関する意識調査について、数値が高かった項目と低かった項目を挙げ、分析と今後の取り組みについてまとめました。また、国語と算数については、学習指導要領の内容別の主な課題と改善に向けた取り組みについてまとめています。

【調査結果のポイント】

全国的な傾向として以下の事項が報告されています。本校でも同じ傾向が見られます。

6年国語

- 資料を用いる目的を理解したり、目的や意図に応じて、資料を使って話したりすることはできている。
- 目的に応じて、文章と図表を結び付けて必要な情報を見つけて読むことについて課題がある。

6年算数

- 速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことはできているが、速さを求める除法の式と商の意味を理解することに課題がある。
- 複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述することに課題がある。

【本校の全体の正答率について】

6年国語科：全体の正答率は 国・県の平均と ほぼ同じです。

6年算数科：全体の正答率は 国・県の平均と ほぼ同じです。

【個票の配布について】

個人の結果（個票）については、10月に配布をします。なお、国が採点を行っているため解答用紙の返却はできませんのでご了承ください。

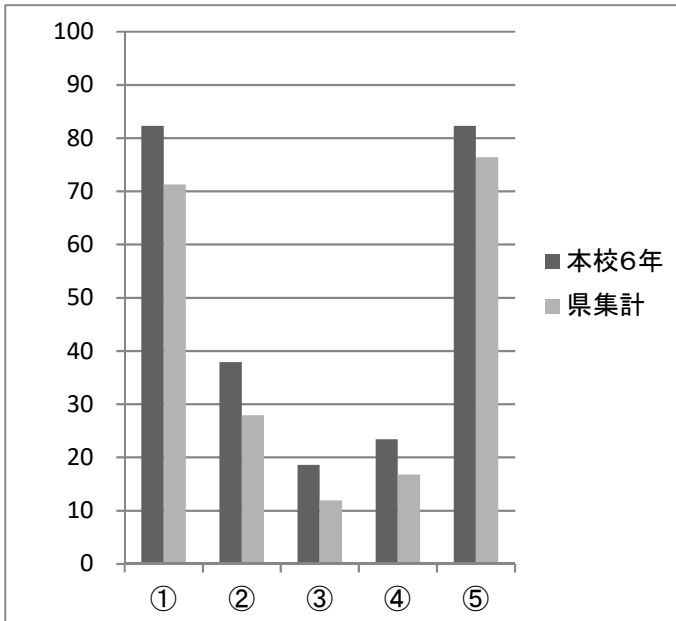
【今後の取り組みについて】

本校では、9月に、職員研修を行って今回の結果を詳しく分析しました。その分析をもとに、2学期以降の授業の改善等に生かして、学力の向上をはかっていきます。家庭学習の具体的な取り組み・お願いについては、2学期始業日に「家庭学習リーフレット」を保護者の皆様に配布してお知らせしています。学習に対する取り組み方や学習方法を工夫することによって、より学力の定着が図れます。保護者の皆様におかれましては、本校の取り組みを御理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

◆生活習慣に関する「質問紙（意識）調査」から

【 数値が特に高かった項目 】

	調査の項目
①	英語の勉強が好きな割合
②	普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしているかの割合
③	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしているかの割合
④	国語の解答を文章で書く問題についてどのように解答したかの割合
⑤	自分には、よいところがあると思っている割合



【分析と取組】

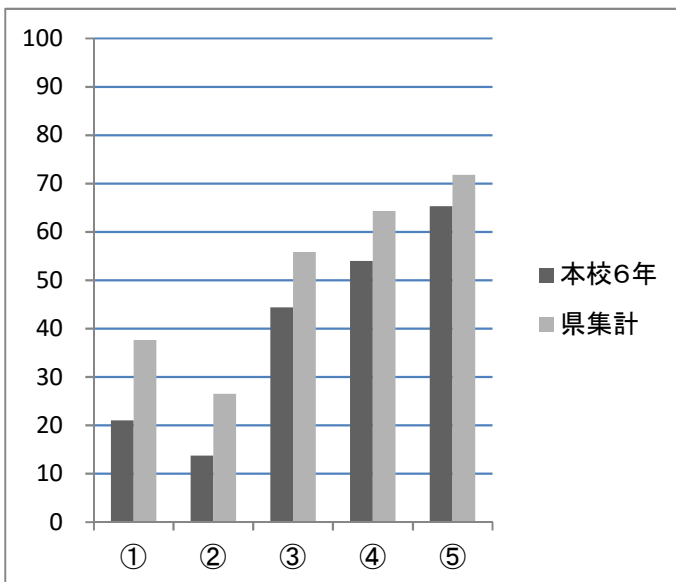
○県平均と比べ、英語の勉強を好きだと思っている児童が多い。三日月小は、英語専科の教員がいるので、様々な工夫を行った授業を行うことができている。引き続き主体的で深い学びにつながるような時間にしていきたい。

○県平均と比べ、普段テレビゲームを長い時間している児童が多い。家で子供だけで過ごす時間が多かったり、携帯所持率が高かったりすることが要因の一つだと考えられる。元気カード、三日月ルールの指導を継続し、使い方や使う頻度についても外部講師の活用などをして啓発していきたい。

○県平均と比べ、休みの日に長い時間勉強している児童が多い。自主学習ノートを週末の課題にしたり、手本となるものは紹介したりしている。今後も家庭学習の定着、推進に向けて取り組んでいきたい。

【 数値が特に低かった項目 】

	調査の項目
①	5年生までに受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用したかの割合
②	友達と意見を交換したり調べたりするために、どの程度コンピュータなどの ICT 機器を使用したかの割合
③	新型コロナウイルスの感染拡大で学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じた割合
④	算数の勉強が好きな割合
⑤	国語の解答時間は十分だったと回答した割合



【分析と取組】

○県平均と比べ、授業の中で ICT 機器をあまり活用できていないと感じている児童が多い。電子黒板などは高頻度で使用しているが、個人での ICT 機器の活用は十分にできていない。今年度導入された Chromebook を中心に授業に取り入れていきたい。

○県平均と比べ、休校中に勉強について不安を感じた児童が少ない。家庭の協力、家庭学習の定着が進んでいると考えられる。また、1学年4担任という三日月小の長所を生かし、課題の質や量について十分に検討できたからだと考えられる。

○県平均と比べ、算数の勉強が好きな児童が少ない。校内研究で進めている「しかけ」などを活用し、児童が主体的に楽しみながら学べる授業にできるように指導・支援を行っていきたい。

◆令和3年度全国学力・学習状況調査《 6年生 国語科 》

全体の概要

- ・全体の正答率は、県平均とほぼ同じである。
- ・内容別にみると、「言語事項」「話す・聞く」「読む」は県平均とほぼ同じである。「書く」内容は県平均を大きく下回っている。
- ・観点別にみると、「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに県平均とほぼ同じである。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は県平均とほぼ同じである。 ・主語と述語の関係を捉える問題は県平均と同程度であるが、誤答として述語の直前の言葉を主語として選択してしまうものが多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文節が多く、長い一文から主語、述語を捉える問題に取り組む。
思考・判断・表現	<p>【話す聞く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正答率は県平均とほぼ同じである。資料を用いて話す時は、その目的や意図にあった資料を選ばせる必要がある。 	<p>【話す聞く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」単元では、自分が話したい内容の資料をICT機器で提示し、話をする学習を取り入れる。また、目的や意図を意識させたグループでの話し合い活動を多く経験させる。 ・原稿を全て書いたものを読むのではなく、メモをもとに話しをする練習を行わせる。
	<p>【書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正答率は県平均を大きく下回っている。自分の主張が明確に伝わるように文章全体の構成や展開を考える問題では、その意図が読み取れず、書き方の工夫が理解できていない。また、理由を明確にしながら、条件に合わせて自分の考えを書く問題では、書くための条件が3つあり、それを満たして書くことが難しかったようである。 	<p>【書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・条件を満たして、自分の考えを書くためには、練習が必要なため、自主学習の課題として、条件作文に取り組ませる。
	<p>【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正答率は県平均とほぼ同じである。時間の経過に着目し、文章全体の構成を読み取る問題は、県平均を大きく上回っている。一方、資料を読み、条件に合わせて要約する問題は、県平均をやや下回っている。 	<p>【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で説明文を要約する活動を取り入れる。その際、提示されたキーワードを入れることや、字数を制限するなどの条件をもとに要約させるようにする。

◆令和3年度全国学力・学習状況調査 《 6年生 算数科 》

全体の概要

- ・正答率は県平均とほぼ同じである。
- ・領域別にみると、「図形」「測定」の領域がやや上回る状況である。
- ・観点別にみると、「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに県平均とほぼ同じである。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・除法の式と商の意味が理解できていない。 ・棒グラフから項目間の関係を読み取ることができていない。 ・データを二次元表に分類整理することができていない。 ・面積公式は覚えているものの、底辺と高さが図形のどこにあたるか、理解できていない。 ・商が1より小さくなる除法の問題場面で正しく立式できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・式の意味理解ができるように、何を求めて立式したのかを意識させるため、単位に注目させたり、言葉の式を書かせたりする。 ・単体量あたりの大きさの意味や表し方について理解させ、それを求めるような問題を取り入れる。 ・二次元表や棒グラフ・帯グラフの特徴や使い方を理解できるよう、他の教科と関連して活用できるようにする。(例：自分たちで考えたアンケートを集計してグラフに表す) ・単に公式を覚えさせるのではなく、公式の意味や過程を理解できるようにする。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合が記述できていない。 ・問題に対して、どのようなデータを集めるべきか判断できていない。 ・説明を解釈し、他の数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できていない。 ・文章問題の意味理解ができていないため、何を答えればよいか判断できていない。 ・問題文を正確に読んで、複数の条件に合った解答の記述ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・しかけとして情報不足だけでなく、情報過多の問題を取り入れる。 ・授業において、理由を尋ねたり、自分の言葉で説明するような活動を取り入れたりする。 ・身近な事柄をグラフや表を用いて表す活動を行い、結果やデータを比較したり、言葉で説明したりする問題を取り入れる。 ・様々な数量関係において、基準量を定めたとき、比較量が何に当たるか(割合)を捉える問題を扱う。更に同じ問題で基準量を変えて考えさせる。 ・問題文から分かることに、線を引いたり、絵や図で分かりやすく表現したりすることで、情報をわかりやすく整理する力が身につくように授業で取り扱う。